人のために生きることが、自分のエネルギーになる。

シリーズ 人の間に
— Vol.18 —

第２回 能登町顕彰条例表彰受賞

三宅 セツ子さん（67歳・小木）

障害を抱えながら

わたしは3歳のときに小児マヒで両足が動かなくなりました。小学1年生から4年生までは4歳年上の姉におんぶされて学校に通い、5年生からは友だちにかばんを持ってもらい松葉杖で通いました。子どものころは父親が「お前が心配や、心配や」といつも言っていたので、わたしも「どうやって生きていけばいいのか」「どうやってお金を稼げばいいのか」不安に思っていました。でも幸せなことに障害年金をもらうことができました。今ではわたしの唯一の収入、障害年金がなかったら生きていけなかったです。

社会に貢献したい

障害年金をもらうようになって、わたしは社会に貢献したいと強く思うようになりました。そしてわたしの時間を提供して少しでも返したいと思ってボランティアを始めました。身体障害者団体連合会や食生活改善推進員、日本赤十字の会員などの活動を通して、少しでも人の役に立てるように仲間の送り迎えをしたり、一緒に会合に出席したりと走り回っていました。

わたしは27歳のとき、身障者として石川県で第1号の運転免許を取得しました。障害者のコースを新設した金沢の自動車学校にすぐに申し込み、絶対免許を取って帰ると学校の寮に泊まり込んで勉強しました。当時は自家用車というものがほとんどない時代でしたが、歩けないわたしにはどうしても車が必要だと思ったのです。車の運転が出来るようになって、わたしの生きる世界が広がり本当に良かったと思っています。

泳ぐことができる

28歳のとき33歳年上の夫と結婚し翌年長男が生まれました。31歳からは夫と一緒に旅館を営みながら、夫婦で海外旅行にいったりとそれなりに楽しい人生を送っていました。昔はイカ釣り船の乗組員のお客が多く、家庭料理が好まれたということもありましたが、今思えばこの体でよくやったと思います。

長男は16歳で交通事故で亡くなり、夫はわたしが57歳のときに90歳で亡くなりました。その後はわたしが子どものときからやっていた唯一のスポーツである「水泳」の大会に出るようになりました。平成11年の「ハートフルくまもと大会」で当時の新記録で優勝して金メダルを2個もらいました。水泳は今でも続けています。週に3回は七見の「なごみ」に通って1時間はずっと泳いでいます。また小学校の手作り教室の講師として、現在は月に2回、リサイクルで物を作ることを子どもたちに教えています。

ボランティアはわたしのエネルギー

今回の顕彰については、最初なぜわたしがと思いましたが、今までやってきたことが認められたのかなとも思っています。わたしはボランティアが本当に好きなんです。人の役に立つことがわたしのエネルギーになるんです。

わたしの学校の先生は「天は二物を与えず」という言葉を贈ってくれました。「体が不自由でもあなたには素直な心がある。その心を大切に生きてほしい」と言ってくれました。

わたしは今、本当に幸せです。これからも生き生きと生活していきたいと思っています。

プロフィール：昭和52年から内浦町身体障害者団体連合会副会長、平成9年から会長を務める。現在は身体障害者相談員、能登町身体障害者団体連合会副会長などを務め、地域の社会福祉向上に貢献。

写真右：11月3日に行われた式典で表彰式で表彰状を受け取る三宅さん
写真左：支えてくれた姉と友人2人を交えて記念撮影

褒章叙勲

栄典とは、国家や社会への長年の功労あるいは社会の各分野における優れた行いに対して国家が個人を顕彰する制度で、褒章と勲章があります。11月3日付けで発表された「秋の褒章と叙勲」では、その功績に対し能登町から4人が選ばれました。

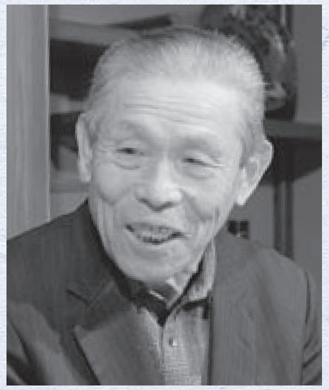
滝義雄さんに『藍綬褒章』、青木豊治さんと炭谷昭平さんに『旭日双光章』、井上美代次さんに『瑞宝単光章』が伝達され、栄えある受章となりました。

都内での伝達式と皇居宮中での拝謁にはそれぞれが出席し、受章の喜びを新たにしました。

藍綬褒章（らんじゅほうしょう） 滝（たき） 義雄（よしお）さん

「大切なのは思いやりの運転と規則をしっかり守ること」と話す元県交通安全協会理事の滝義雄さん（布浦・78歳）。防犯委員としても活躍し、地域の小学生を対象に交通安全教室を開くなど交通道徳の普及に寄与しました。

旭日双光章（きょくじつそうこうしょう） 青木（あおき） 豊治（とよじ）さん



旧柳田村議会議長を務めるなど、昭和54年から平成18年までの長きにわたり地域発展のために尽力した青木豊治さん（神和住・74歳）。「今後も一町民としてできることで町に貢献していきたい」と感謝の言葉を述べました。

旭日双光章（きょくじつそうこうしょう） 炭谷（すみや） 昭平（しょうへい）さん

旧能都町議会議員として昭和55年の当選以来、町の産業、教育、文化の向上に手腕を発揮した炭谷昭平さん（鵜川・72歳）。平成18年まで在職し、その間議会議長を務めるなど、地方自治の発展に貢献しました。

瑞宝単光章（ずいほうたんこうしょう） 井上（いのうえ） 美代次（みよじ）さん

昭和45年から35年もの間、消防団員として、また旧内浦町消防団長としての任務を遂行した井上美代次さん（清真・72歳）。「地域のみなさんの支えがあってこその受章だと心から感謝しています」と受章の喜びを語りました。

表彰受賞

10月から11月にかけて、さまざまな分野における功績が認められた個人や団体に対して大臣表彰をはじめとして栄誉ある賞が数多く授与されました。

不動寺公民館と宇出津小学校に文部科学大臣表彰、数馬嘉雄さん（のと食品衛生協会長）、木田紀子さん（第二長寿園施設長）には厚生労働大臣表彰がそれぞれ授与されました。

また平成19年度の石川県統計功労者表彰では水野勉さんが石川県知事表彰を受賞し、ほか7人が石川県統計協会長表彰に輝きました。各賞を受けられたみなさん、おめでとうございます。今後ますますのご活躍を期待します。

文部科学大臣表彰・優良公民館表彰 不動寺公民館

地域に支えられ、伝統を守りながら常に新しいものを創り出すなど多彩な活動を積極的に進めてきた不動寺公民館。吉村安弘館長は「今後も公民館の歴史を守っていきたい」と今後の抱負について語りました。

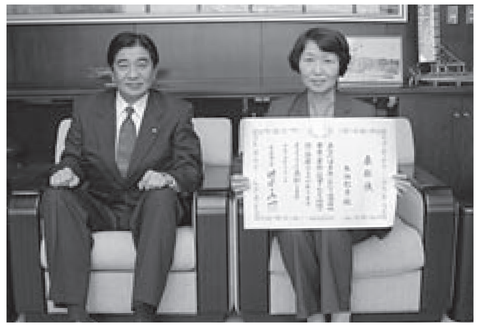
厚生労働大臣表彰・食品衛生功労者 のと食品衛生協会長 数馬 嘉雄さん

食の安全・安心を守るため、長きにわたり食品衛生行政に協力するなど、その功績が認められての受賞となりました。また同協会食品衛生指導員の山岸浩嘉さん（柳田）が日本食品衛生協会理事長表彰を受けました。

文部科学大臣表彰・学校安全表彰 宇出津小学校

学校安全の普及と向上に努め、子どもたちが安心して学べる学校づくりに励んでいる宇出津小学校。喜多文男校長は持木町長に受賞の喜びを伝えると共に「今後は危険予測学習も進めていきたい」と報告しました。

厚生労働大臣表彰・社会福祉事業従事者 第二長寿園施設長 木田 紀子さん



「職員を代表して受賞したものだと思っています」と話した木田さん。昭和59年、長寿会発足時から栄養士として勤務し、生活相談員などを歴任するなど24年間にわたり福祉分野に貢献しました。

石川県統計功労者表彰

平成19年度の県統計功労者表彰式が11月12日に県庁で行われ、町内から8人が受賞しました。

〈県知事表彰〉
水野　勉さん（黒　川）【写真右】

〈県統計協会長表彰〉
河村喜久子さん（宇出津）
川原　章二さん（宇出津）
新名恵美子さん（清　真）
濵野　孝子さん（小　木）
大坪　照子さん（立　壁）
上野　英子さん（越　坂）
神田美佐子さん（内浦長尾）

灯台記念日感謝状授与式

灯台記念日の11月1日、海上保安庁の業務に協力した個人、団体に感謝状が贈られました。

〈個人〉橋谷　武さん（立　壁）
〈団体〉県漁業協同組合内浦支所

11月

まちの出来事 Vol.1

寺田川ダム竣工式

12年の時を経てついに完成

組倉地内の寺田川上流で平成8年度に着工した寺田川ダムがこのほど完成し、10月23日に竣工式が行われました。このダムは農業用水と上水道用水の確保を目的に建設されたもので、12年から本格的な工事に取りかかり昨年10月から試験湛水を始めました。

建設計画敷地内に生息していた絶滅危惧種のホクリクオオサンショウウオをダム上流の湿地に移すなど、環境にも配慮しながら工事が進められてきたダム建設。上水道への供給は今年4月より開始されており、農業用水は今年度中にパイプラインなどを整備し、来年4月から供給開始することになっています。

【写真：神野保育所の園児も一緒にくす玉を開き完成を祝いました】

能登町民文化祭

文化と芸術が薫る秋の能登町

▶1年間練習してきた成果を発揮して、すばらしい舞台を演出した出演者

▼芸術部門の会場となった柳田体育館

第3回能登町民文化祭は11月3日、4日の日程で柳田地区を会場に開催されました。柳田山村開発センターと柳田体育館では文化協会員ら約400人の芸術作品が展示され、陶芸や生け花、絵画などが訪れた人の目を楽しませませました。

4日には柳田小学校体育館で芸能発表が行われました。町文化協会の髙木泰憲会長が「出演者が365日磨き上げた努力の成果をご覧ください」とあいさつし、ステージでは舞踊やコーラス、大正琴などが次々と披露され観客を魅了しました。また小学校内の和室に設けられたお茶席は、文化祭を見に来た人の休憩の場として利用されその雰囲気を楽しむ人で賑わいました。

美味しい魚を育てる森づくり

元気な山は美しい海を生む

10月27日、猪平地内で能都北辰高校海洋科の生徒や商工会、森林組合など関係者60人が、ケヤキの植樹を行いました。

この事業は、川や海を浄化し優れた保水力を持つ森づくりを促進しようと5年前に始まりました。小雨の交じる中、苗の植え方の説明を受けた参加者はくわを手に用意された200本の苗を丁寧に植えていきました。緑を増やすことは地球温暖化防止対策という面でも大きな意味を持ちます。海と関わりを持つ海洋科の生徒たちは「植樹がいかに海にとって大切かを学びました」と話し作業に汗を流していました。

慣れない作業ながらも懸命に取り組む生徒

関本会長から賞状と記念品を受け取る児童たち

「人権の花運動」感謝状贈呈式

花と一緒に育てる優しい心

「人権の花運動」に取り組んだ宇出津小学校への感謝状贈呈式が10月30日、同校体育館で行われました。児童たちは町の人権擁護委員から昨年贈られたマリーゴールドなどを心を込めて育ててきました。この運動は2年間にわたって行われ、児童たちが協力して花を育てることで、豊かな情操を育むことを目的としています。輪島人権擁護委員協議会能登支部の関本昌夫会長から賞状と記念品が贈られると、児童を代表して6年生の水元佑哉くんが「花に負けないようにみんなで仲良く助け合いたいと思います」と今後の目標について述べました。

久田船長碑前祭

105年前の勇姿を偲んで

10月29日、久田佐助船長碑前祭が鵜川菅原神社境内で行われ、関係者や地域住民、鵜川小中学校の児童生徒ら約100人が参加しました。久田船長は、明治36年青函連絡船の事故の際、乗客や船員らを守るため沈む行く船に残り、救助を求める汽笛を鳴らし続け殉職しました。地元顕彰会が毎年その命日に営むこの碑前祭は今年で105回目を数えました。

碑前祭では、久田船長の勇気ある行動を讃えようと鵜川小学校の代表2人が国定教科書を朗読し、参列者全員で唱歌を合唱しました。

鵜川公民館の壁には船長を描いた6畳凧が飾られていました

塗り箸で豆をつまんで器に入れる「まめまめレース」

鳳珠郡老人クラブスポーツ大会

健康には運動が一番

高齢者の健康維持や会員同士の親睦を深めようと毎年開催されている鳳珠郡老人クラブスポーツ大会。今年は10月24日に柳田体育館を会場に行われ、能都・柳田・内浦・穴水支部の会員約250人が参加しました。

開会式では町社会福祉協議会会長を務める持木町長が「健康づくりに有意義な大会です。けがのないよう過ごしてください」と開会の言葉を述べました。大会はお年寄りでも楽しめる趣向を凝らした種目が用意され、参加者は和気あいあいと競技を楽しんでいました。

11月

まちの出来事 Vol.2

羽根万象先生を偲ぶ会

絵画への情熱は未だ消えず

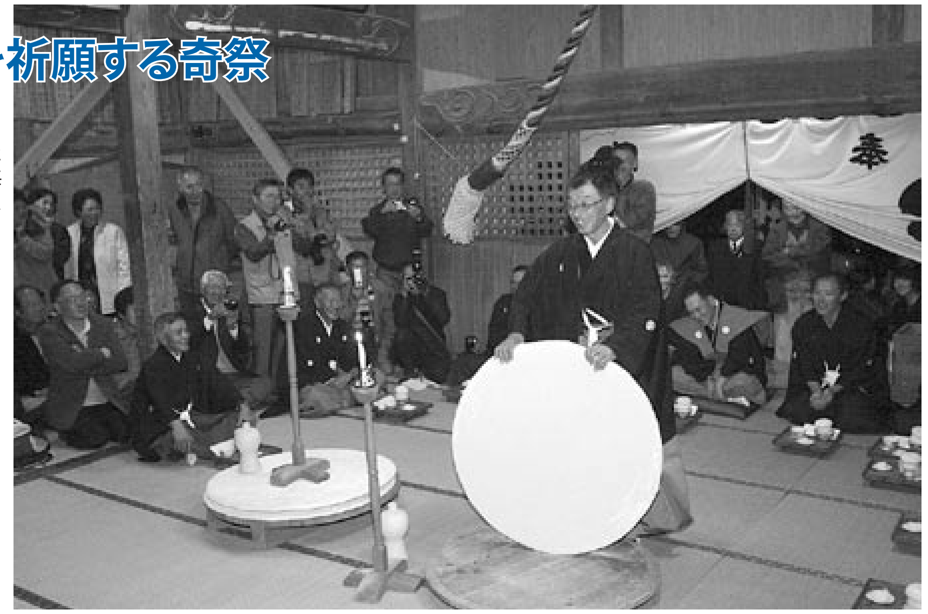
今年８月８日に逝去された、画家で能登町名誉町民の羽根万象先生を偲ぶ会が11月17日に羽根万象美術館で行われ、会場には遺族や関係者ら約100人が参列して先生のご冥福を祈りました。

日本を代表する日展画家として活躍し、生まれ故郷である旧能都町の小中学生を対象にした絵画コンクール「羽根万象賞」を24年間主宰するなど、子どもたちに夢を与え続けてくれました。平成16年に羽根万象賞を受賞した鳥越陽太さん（鵜川中学校１年）は「この賞をいただき絵を描く楽しみを覚えました。天国からわたしたちが楽しむ姿を見守ってください」とお別れの言葉を告げました。

【写真：先生との思い出を振り返り式辞を述べる持木町長】

鵜川・いどり祭り

餅をけなし、豊作を祈願する奇祭



▶テレビ局や県外からも訪れていたカメラマン、そして地元住民など毎年たくさんの人が「いどり」を楽しみにしている

▼最後は３度にわたりお神酒が出される

鵜川菅原神社の秋祭り「いどり祭り」は11月７日に行われました。奇祭として知られるこのいどり祭り。正式には八講祭と呼ばれ11月１日から８日に行われる新嘗祭のひとつで、餅をいどる（けなす）ことにより来年の豊作を祈願するものです。

主賓である傳兵衛役は子孫の広田鍬次郎さんが務め、当番が８回迎えに出向きます。傳兵衛が神社に到着し神事が終わると、まずは小餅が御膳に運ばれます。小餅をいどったあとは、いよいよ当番が作った直径1.2 mの大きな餅をいどり合います。「反り上がっている」「地震もあったが、餅もひびだらけだ」などといどり合い、最後は神主が仲裁に入りこの場を納めました。

小木小学校１日消防士体験

いざというとき役に立つ!

災害は忘れたころにやってきます。11月９日、火災の恐ろしさと消防士の仕事について学ぼうと小木小学校で避難訓練と１日消防士体験が行われました。

これは小木分団・内浦分署の協力で開かれたもので、児童たちはバケツリレーや消火器を使った消火訓練などを体験しました。火事現場の煙の様子を疑似体験できる煙体験ハウスも用意され、児童たちは煙の怖さを再認識したようです。最後は消防ポンプ車に乗って町を見回り、町と大切な命を守る重要な仕事について理解を深めていました。

本物の消防士さながら！防火衣を着ての放水体験

拍子木を手にハッピ姿の園児が町内を歩きました

松波保育園防火パレード

マッチ１本火事のもと

秋季全国火災予防運動に合わせ、松波保育園の園児たちが11月９日に松波地内で防火パレードを行いました。地域のみなさんの防火意識を高めてもらおうと、鼓笛隊を先頭に子どもたちが保育園前を元気に出発しました。沿道には、その姿を一目見ようとたくさんの人が集まり声援を送っていました。

空気が乾燥し火災の発生しやすいこの時期に、地域のみなさんに今一度火の扱いについて気を引き締めてもらいたいと毎年行われているこのパレード。14日には小木保育園の園児たちも小木地内で火の用心を呼びかけ防火運動に一役買いました。

町学校教育研究会「音楽の集い」

音と心をひとつにする時間

音楽を通して親睦を深める「音楽の集い」が11月13日に能都庁舎で開かれ、町内の中学１年生183人が参加しました。生徒たちは３パートに分かれ、アルトリコーダーで「星の世界」を合奏したあと、全員で２曲を合唱し素敵なハーモニーを会場に響かせました。

鑑賞の時間では武蔵野音楽大学をこの春卒業した吉田智美さんの独唱が披露されました。ピアノ調律士の高口緑さんの演奏に乗せた清々しい歌声に、会場に訪れた保護者らも熱心に耳を傾けていました。

何オクターブの声が出るのか実際に挑戦！

会員の中與七郎さんが施設内について説明

松波城址情報館が開館

プチ・ミュージアムの郷

奥能登トリビア蔵「松波城址情報館」の開館式が11月12日に開かれました。これは「民有『歴史文化』資産の保存活用を考える会」が奥能登の魅力を全国に発信しようと、町内に小さな博物館の郷を作る事業の一環として設置されたもので、この日４館目の開館となりました。

旧松波駅の駅舎を再利用して整備された情報館内には、松波城址公園周辺の立体地図模型や畠山氏のルーツを解説したパネルなどが展示されています。金七修会長は「この情報館が町おこしの始発駅となることを願います」と期待を寄せました。